

## 平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 空知地区  
2 事例報告学校名 : 滝川市立東小学校  
3 報告者 : 校長 高 羅 正 次  
4 キーワード : 学校力向上の取組



### 1 はじめに

今年度開校40周年を迎えた本校は、大きな国道が交差し、商業地が集中する利便性の高さから住宅建築が進み、全校児童数498名、普通学級16、特別支援学級4の全20学級と管内でも大規模な学校です。児童間の仲間意識は強く、優しい気持ちで上級生、下級生が接することができるとともに、比較的落ち着いた態度で学校生活を送っています。

今年度の学校経営のテーマは「学ぶ楽しさや喜びがあふれ『つながり』をひろげる学校の実現」です。このテーマの実現を目指して、「職員のつながり《組織力》の強化」「研修のつながり《教師力》の深化」「地域等のつながり《連携力》の拡充」を基盤に、全教職員43名がそれぞれの役割を認識し、学年・分掌を超えた協働体制をとりながらチームとしての教育活動を推進しています。

### 2 学校力の向上

#### (1) 「職員のつながり《組織力》の強化」

学校経営のテーマを実現するためには、校長の経営ビジョンを明確に示し、教職員一人一人に意識させ共有できるようにし、「共通の目標をめざす教職員の育成」をすることが重要であると考えます。そこで、主幹教諭を中心に職員全体が同一ベクトルに向かうことができる重層的な組織構築に向けて、運営調整会議を月に1回開催し、教職員の学校経営参画意識を高めるとともに、教職員同士のコミュニケーションを密にし、組織的な協働体制構築を推進しているところです。

また、学校運営の検証改善サイクルを機能させ、学校改善に迅速に対応するため、各種調査や学校評価の結果分析・改善策等の有効活用を図ることができるよう、学校課題について検討する「課題検討委員会」を学期に1回開催しています。この「課題検討委員会」の取組を通して、主幹教諭を核に、主任等のミドルリーダーが主体的に機能する組織の構築に努めています。

#### (2) 「研修のつながり《教師力》の深化」

##### ① 東小スタイルによる学習過程の確立

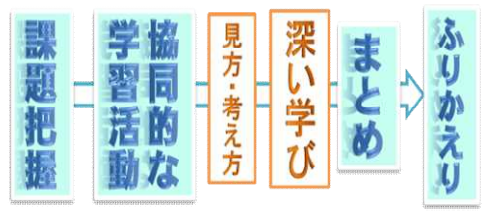
本校では「自分のよさを生かし、主体的に学ぶ児童の育成～協同的な学習活動を通して」を研究テーマとし、自己肯定感を高めながら「主体的・対話的で深い学び」を実現する(東小スタイルによる)学習過程を実践・検証しています。明確な研究課題の究明に向けた取組により校内研究を活性化させ、授業改善を通して、互いに切磋琢磨して高め合う教師集団の育成に努めています。

##### ② 若手教員の育成を通じた全教職員のスキルアップ

本校では今年度4月から2人の初任教員が加わり、学校全体に活気が生まれました。この雰囲気大切にしつつ、日々の学習指導、生徒指導、保護者や地域との連携などで悩みや不安を抱える若手教員を先輩教員全体でサポートする体制として、「ミニ研修(メンター研修)」を実施することとしました。

本校の「ミニ研修(メンター研修)」は次の視点で行うこととしています。

#### 東小スタイルによる指導過程



ア、時間は15分1本勝負

イ、研修テーマは「何でもあり」初任教員が先輩教員に聞きたいことで設定  
ウ、分担などは決めず、都合がつく教員が主体的に参加する。

この「ミニ研修(メンター研修)」において目指すものは、若手教員の育成を通して、学校全体として年代が違う個々の教員が全員で高め合っている研修です。肩ひじ張らず、ざっくばらんに失敗談や成功例の交流等、持続可能な研修を目指していきたいと思えます。



### (3) 「地域等のつながり《連携力》の拡充」

#### ① 補充学習サポート実施と学校サポートの積極的活用



家庭における学習習慣を確立することの重要性について、年度当初よりPTAの各種会議や学年・学級懇談でよびかけるとともに、学校便りや学校ホームページ等を通して発信してきました。また、家庭学習の習慣化を図る一助として、「放課後学習」の実施を、毎年、保護者に案内し参加者を募る取組を継続してきました。参加児童の中には、保護者の方が作成した問題が書いてあるノートを持参して学習する姿が見られるなど、家庭の理解をいただきながら取組を進めています。

また、「國學院大学北海道短期大学部」が本校に隣接していることから、大学と連携を図り、将来教職を目指す大学生が「放課後学習」や「長期休業中の補充学習」の学習サポートにあたることのできる体制を構築しました。学生にとっては一早く子どもたちへの学習指導を経験する場となり、また、子どもたちにとってはよりきめ細やかな学習支援を受けられることにつながり、互いにメリットのある関係となっています。



#### ② 小中連携、一貫教育推進の充実



本校児童が進学する明苑中学校が、今年度より「中1ギャップ未然防止事業」の主体校となったことから、これまで以上に小中の連携を強め、中学校区として目指す子ども像の設定や学習指導・生徒指導上の諸課題について意見交換を実施しています。

また、中学校の英語教諭による「外国語科」の乗り入れ授業を週2回実施し、学習指導や生活指導の円滑な接続を図ることができるよう取組を進めています。さらに、「長期休業中の補充学習」

へ中学生の学習ボランティア派遣、「いじめ撲滅集会」「新入生体験入学」等を通じた、児童・生徒の交流事業も積極的に取り組んでいます。



### 3 おわりに

子どもたちの生きる力を高めていくためには、チーム学校として全職員が課題や目標を共有し、学校改善に取り組んでいくことが重要だと考えます。今後も教職員の資質能力の向上に努めるとともに組織体制や活動を見直しながら学校力向上に向けて力を尽くしていきたいと考えています。